

利用ガイドライン〔β版〕作成の背景 と現在の活動

2011年11月7日

利用部会 利用ガイドラインWGリーダー 松下綾子
(アルプスシステムインテグレーション株式会社)

利用ガイドラインのリリース

2011年8月31日付

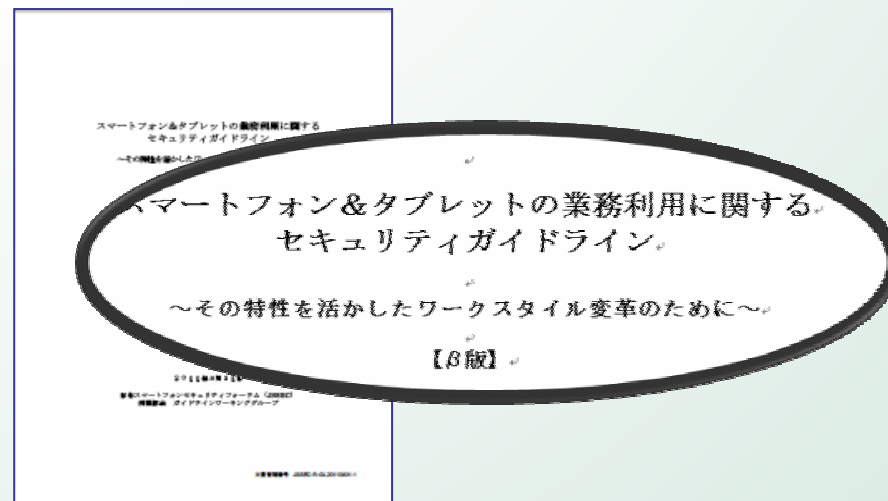
**『スマートフォン&タブレットの業務利用に
関するセキュリティガイドライン【β版】』**

9月7日 リリース

ご協力いただいた皆さんに感謝しています。



**総務省のページにも
掲載されています！**



アジェンダ

- (1) 利用ガイドラインの基本方針**
- (2) 作成経緯と枠組み**
- (3) ガイドラインのポイントとまとめ**
- (4) 現在の活動**

利用ガイドラインの基本方針①

目的

- 利用者目線での執筆を重視し、まずは読者に
気付きを与えるための資料 とする。
- 特定ソリューションや機能に偏らないよう配慮する。
- 外部資料の引用ではなく、一から作る⇒逆に引用されるように。

執筆方針

- 基本姿勢：PCとの違いを強く意識する。
「基本的/普遍的な部分+具体性」を表現する。
- 対象OS：固定せず
- スマートフォンの資産形態：
 - ①会社資産
 - ②個人所有 (BYOD: Bring Your Own Device)

利用ガイドラインの基本方針②

読者の想定と使い方

- 対象：スマートフォン業務活用検討者/導入決定者
- 利用イメージ：

- ① 当事者が最初に手に取る手引書
- ② 全市場におけるビジネスシーン（官公庁含）
- ③ JSSECの顔となりPRに役立てる

「こういうことがしたい」→「こういうリスクがある」→「解決するためには」

- 媒体：① 全文をHP掲載
- ② 紙媒体は無（展示会等に出展するなら配布したい）

作成手法

WG内からタスクフォースを募って詳細執筆⇒WGで確認

作成経緯①骨子の検討

視点(ファーストステップ)

骨子となる項目の精査

- 機能面 (ツール) ⇒詰めると利用シーンに。
機密度、構成要素 等 PCと同じになってしまう。
情報セキュリティの観点。
- 脆弱性、脅威から ⇒詰めると利用シーンが最初に。
- 利用シーンから ⇒採用
- スマートフォンらしさ ⇒採用

骨子項目

利用シーン ⇒脅威 ⇒リスク ⇒対策 ⇒要件

作成経緯②枠組みの変更～初期案とβ版

初期の完成イメージ = 3段階 =



－ 梅 (2011年8月 β版、10月初版)

- ・基本的、普遍的なしくみ (基礎編)
- ・脅威と対策のレベ分け (基礎編)



－ 竹 (2012年 2月上旬)

- ・活用シーン別の対策～体系化WGとの連携



－ 松 (2012年 3月以降今後調整)

- ・技術的背景と現状～技術部会との連携
- ・業種別、特殊環境、固有の性質別の想定 等

しかし
β版リリース日の
日程変更せず

しかし

時流に合った有用資料とするために「竹」まで含めて対応することに決定

作成経緯③もくじの変更

初期のもくじ案

- ・はじめに
- ・1章 スマートフォンがもたらす業務革新
- ・2章 スマートフォン活用のしくみ
- ・3章 陥りやすい罠 (脅威)
- ・4章 レベル別にみるセキュリティのポイント
- ・5章 利用シーン別にみるセキュリティのポイント
- ・おわりに



(第6章～第〇章 体系化WGの結果表を挿入)

(第〇章～第〇章 技術部会の結果)

作成経緯④もくじの再検討

脅威洗い出し作業での発展

- 旧3章は「脅威」から？「利用シーン」？ ⇒「利用シーン」
 - マインドマップの作成
 - 結論：なぜその脅威があるのか説明しないとわかり辛い
- 旧3章「利用シーン」＋4章「脅威」と分けるか？ ⇒統合
 - マインドマップの作成
 - 結論：別章にするより一括した方が分かりやすい
- 「脅威」は利用シーンだけ？
⇒管理面を「ライフサイクル」面としてシーンを追加
- 「対策」と「要件」は別項とするか⇒「対策」に含む
 - 具体性を持たせるため対策が主軸。対策のないものは要件。
 - 利用シーンの中に統合

β版のもくじ (2011/8/31版)

1章. はじめに

- 1.1. 本ガイドライン利用にあたって
- 1.2 本ガイドラインの目的
- 1.3 本ガイドラインが対象とする読者
- 1.4 本ガイドラインが対象とする範囲
- 1.5. 本ガイドラインの構成

2章. スマートフォンの 利活用によるメリット

- 2.1. 導入のねらいと理由
- 2.2. 活用例と効果
- 2.3. スマートフォンを取り巻く動向

3章. スマートフォンのしくみと概要

- 3.1. デバイスの特徴とOSの種類
- 3.2. アプリケーションとその入手形態
- 3.3. 通信形態とネットワーク

4章. スマートフォンの特性と留意点

- 4.1. 特性
- 4.2. 特性から見る脅威
- 4.3 これまでのPCセキュリティとの相違

β版のもくじ (2011/8/31版)

5章. 利用シーンから見る脅威と対策

- 5.1. **アドレス帳**を利用する
- 5.2. **電話**を利用する
- 5.3. メールを利用する
- 5.4. スケジュールを利用する
- 5.5 ブラウザを利用する
- 5.6. **ネットワーク**に接続する
- 5.7. **社内ネットワーク**を利用する
- 5.8. 組織契約のSaaS/ASPを利用する
- 5.9. アプリケーションを利用する
- 5.10 デバイスの機能を利用する
- 5.11 **データの可搬媒体**として利用する
- 5.12 バックアップを取る/同期する
- 5.13 [参考] インターネットストレージサービスを利用する
- 5.14 [参考] SNSを利用する

6章. ライフサイクルから見る 脅威と留意点

- 6.1. 計画
- 6.2. 導入
- 6.3. 運用
- 6.4. 廃棄

7章. おわりに

- 7.1 **利用目的とセキュリティのバランス**
- 7.2 組織のセキュリティポリシーと意思決定
- 7.3 情報収集継続の必要性

作成経緯⑤内容の詰め

内容精査

- スマートフォンらしい利用シーンの側面を複数検討
- 各もくじに属する項目情報洗い出し ⇒一覧表作成
 - データの機密性を切り口にするとセキュリティ全般の要素となるため、またボリューム増のため、まずは割愛
 - 利用シーンの深堀 (実装方法の違いによるシーンの違い) は、ボリューム増になるめ、まずは割愛
 - SNSの活用やマーケティングツールとしての利用方法は、市場背景や特性の章、またはアプリケーションの項で記載
- 各項目のマッチング (シーンと脅威、脅威と対策等)
- 項目の分類と細分化または統合 ⇒表の精査
- 項目化できない背景や情報の文章化

ガイドラインのポイント①

1. スマートフォンの**特性**を押さえておく必要がある

- ・スマートフォンの機能は、**本来すべてアプリケーション**
- ・パーソナライズが**すごく簡単**



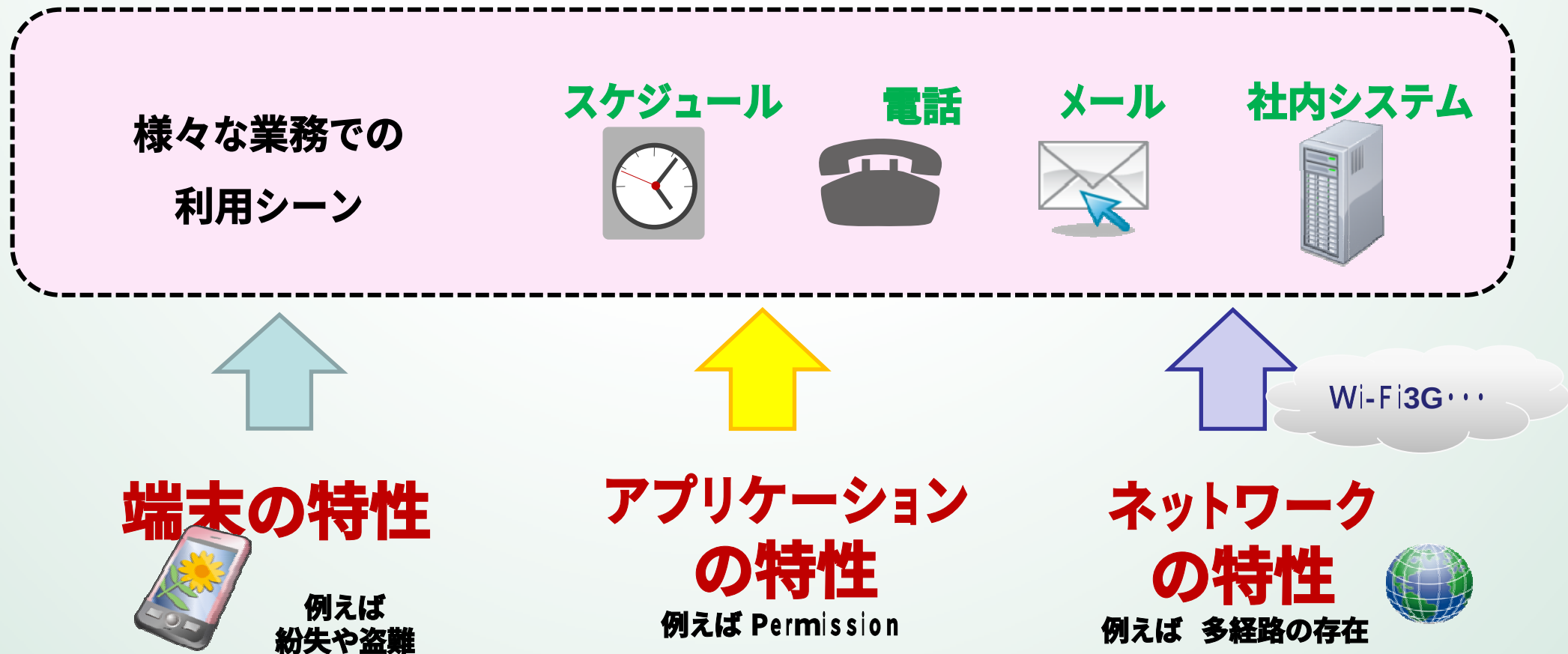
2. スマートフォンの**サービスモデル**を押さえておく必要がある

以下のような漠然とした不安の解消につなげる。

- ・アプリケーションの**マーケットの信頼性**って？
- ・データはどこに？ **保存場所が、よく分からない！**
- ・マルウェアの**感染方法は？** PCと違うの？
- ・アプリケーション自体が問題？ **不正アプリ**って？

ガイドラインのポイント②

3. セキュリティのポイントは、**三要素に相互依存**する。

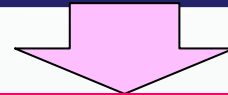


ガイドラインのまとめ

利用目的を明確化する

脅威と対策要件から
バランスのとれたセキュリティを選択する

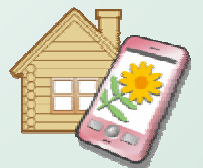
管理面では**プライバシーの侵害**に配慮し (誓約書作成等)、
また、**ライフサイクルを意識**する



スマートフォンは
拡張性や発展性が高く利用者のモチベーションをアップします

ワークスタイルの変革につなげましょう

「さあ、スマートフォンしましょう」



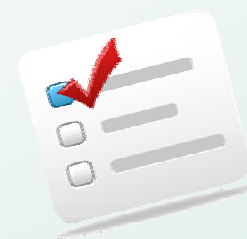
現在の活動①初版の改訂ポイント

改訂/作成中の項目

- ・ 4章 (特性から見る脅威と留意点) の改訂
 - 特性から見る脅威と対策要件、解説の見直し
 - 見易さの検討 (表の挿入等)
- ・ 5章 (利用シーンから見る脅威と対策) の改訂
 - 対策や要件の見直し
- ・ 6章 (ライフサイクル) の改訂
 - 文章の見直し

現在の活動②初版の改訂ポイント

- ・ パブコメの反映 (全9件 + α = 15件)
 - グローバル対応ための英語化⇒初版で対応予定
 - 4章「特性」と5章「利用シーン」関係不明確による質問⇒初版で改訂予定
 - 記載内容の改訂の指摘⇒初版で検討、改訂
 - ネットワーク部分の記載充実⇒他項目との粒度に照らし検討中
 - 利用シーンの具体化 (事例など) やBYODの充実⇒第二版で検討
- ・ 添付資料の作成
 - 対策と要件のチェックシート
 - 誓約書の重要項目一覧
 - 手順書の重要項目一覧
 - 用語一覧



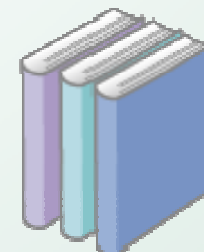
現在の活動③今後の予定

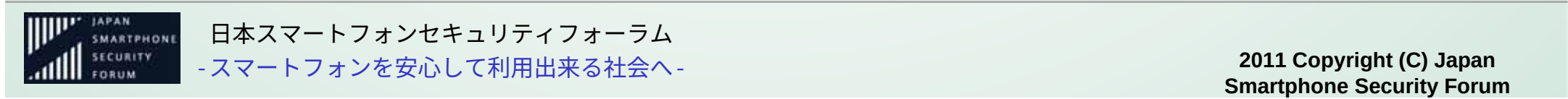
スケジュール

WG開催予定 : 11月 末

初版リリース予定 : 12月上旬

初版英語化予定 : これから調整





おわりに

**ありがとうございました。
これからもご協力よろしくお願いします!**